

## 令和5年度サービス管理責任者等指導者養成研修会（国研修）受講報告

専門コース別研修部分障害児支援コース

## 1 国研修で伝達されたこと

- ・ 障がい児支援は相談支援専門員と児童発達支援管理責任者が一緒に学ぶ場として、各都道府県の実情に合わせて研修開催を検討してほしい
- ・ 相談支援専門員が現任研を受ける前に障害児支援コースを受けると良い  
(大人も児童もベースは同じなので、知っておくことが重要)
- ・ 障害児支援ではあるが根底にあるのは一人の児童という考え方
- ・ 児童発達支援 C が中核的な役割を担い、官民共同で地域の通所支援の体制整備を行っていく
- ・ 児童虐待の相談対応件数は増加しており、少子化が進む中で支援対象児童は増加してきているためにサービス充実が急務
- ・ 児童発達 C 国としては中核的な役割を伝えてきていなかったもので、法改正で明確化する
- ・ 障害は重複しているので障害に目を向けるのではなく、一人一人に目を向ける
- ・ 因子をとらえ、分析し計画を立てていく  
(自分たちの視点は間違っていないか確認する必要がある)
- ・ 障害児である前に子どもであること
- ・ エビデンスのある支援（経験や勘で仕事をしない）

## 2 意見交換等で得た情報

- ・ 相談支援専門員とサビ菅との連携は必須だが、今まで連携をとってこなかった
- ・ 今後は連携をとる必要があり、まずは双方で話ができる場が持てるとよい
- ・ 都道府県によって色々な形態があり、研修も独自で企画しているために同じことは難しいが根底の考え方は同じなので近隣同士で情報交換が密にできると良い
- ・ サビ菅の担い手が不足しているために研修講師をお願いすることが負担になっている

## 3 伝達されたことを都研修と関連付けて考えたこと

- ・ まずは相談支援専門員とサビ菅との情報交換ができる場を設定する必要がある
- ・ 抱えている課題感は同じところも多いので、研修を一緒に作り上げていくスタンスが取れると良い
- ・ 研修をしていく上では時間的な制約や講師の確保などの問題もあり、カリキュラム通りに実施ができない場合にどの部分に重点を置き、どこを省くかなど細かい相談が必要

報告者：(所属) コネクトしぶや  
(氏名) 安井 一裕